



3.循環型経済の促進

4.産業育成、イノベーション支援

社会課題

みかん果皮のアップサイクルで食品廃棄物削減と地域活性化

■取り組み概要

- ✓ 「循環型経済の促進」に向け、食品廃棄物のアップサイクル*に着目する中、和歌山県におけるみかん果皮残渣の課題を認知
- ✓ みかんの果皮をクラフトビールの原料として活用することで、食品廃棄物の削減に寄与するとともに、地域の未利用資源に新たな価値を生み出すことで、地域活性化に貢献
- ✓ MUFGが主導し、イオン株式会社、株式会社伊藤農園、日本航空株式会社、株式会社Beer the Firstの異業種5社の連携座組を構築することで、スケラビリティ確保・認知度向上をめざす



考えたこと
MUFGが

- ・みかんの果皮残渣が多く発生している現状を知り、食品廃棄物の削減に貢献したいと考えた
- ・みかんの果皮のさらなる活用余地を開拓することが課題となっていることを知り、アップサイクルにより新たな価値を生み出すことで、地域活性化に貢献できるのではないかと考えた
- ・一方、アップサイクルは消費者の需要が確立された領域ではないことから、製品の製造から販売に至るプレイヤーを束ねた座組を構築することで需要の創出をめざした

- ・幅広いネットワークを持つMUFGが主導することで、異業種5社が中心となる連携座組を構築
- ・座組を構築することで、みかんの果皮をクラフトビールの原料として活用した「和歌山県産有田みかんクラフトエール」の販売を実現
- ・食品廃棄物の削減に寄与するとともに、地域の未利用資源に新たな活用価値を生み出すことで、地域活性化に貢献
- ・今回の事例を契機に、今後は他地域や他素材への展開を模索するとともに、地域活性化に資するアップサイクル以外の取り組みも検討



実現すること
MUFGが

* 捨てられるはずの廃棄物に、新しい付加価値を加えて、元の製品よりも価値の高い別の製品に生まれ変わらせる取り組み

ストーリー10

MUFG主導で異業種5社が連携～和歌山県産有田みかんクラフトエール～

■取り組みポイント

- MUFGが中期経営計画で掲げる「循環型経済の促進」の中で、食品廃棄物のアップサイクルに着目していたところ、和歌山県におけるみかんの果皮残渣の課題を認知
- 和歌山県が日本一の収穫量を誇るみかんは、ジュースなどへ加工する際に果皮残渣が多く発生し、これまでは主に肥料や飼料などとして活用されてきた。しかし、みかんの果皮は豊かな香りを持ち、さまざまな栄養成分が含まれていることから、さらなる活用余地を開拓することが課題となっていた
- そこで、みかんの果皮をクラフトビールの原料として活用することを考案し、MUFG主導で、イオン株式会社、株式会社伊藤農園、日本航空株式会社、株式会社Beer the Firstの異業種5社の連携座組を構築することで、「和歌山県産有田みかんクラフトエール」の販売に至った

■MUFGがめざす価値創造



施策・取り組み

- ✓ みかんの果皮残渣のアップサイクル
 - 異業種5社が連携する座組を構築
 - 「和歌山県産有田みかんクラフトエール」の販売

社会的インパクト・達成したい状況

短～中期

- ✓ 食品廃棄物及び廃棄コストの削減
- ✓ 地域の未利用資源に価値を創出し、新たな収益源を確保
- ✓ アップサイクルに対する認知向上

長期

- ✓ アップサイクルを通じて、地域全体の所得が増え、地域の持続可能性が向上
- ✓ アップサイクルが社会的に認知され、消費者の新たな購買行動が生まれる

■担い手は語る

Q どのような想いで本取り組みを行いましたか？

A 和歌山県有田市で100年以上の歴史を持つ伊藤農園と出会い、みかんの果皮残渣の課題を知ったことが本取り組みのきっかけとなりました。
地域の未利用資源に新たな価値を生み出し、和歌山県の活性化につなげたいという想いで取り組みを行ってきました。

Q 今後取り組んでいきたいことはありますか？

A 本取り組みで得た経験・知見を活かして、他地域や他素材への展開を図るとともに、食品廃棄物のアップサイクル以外の地域活性化に資する取り組みを模索・推進していきたいです。



搾汁現場で発生するみかんの果皮残渣



本取り組みに関して和歌山県知事表敬訪問
を実施（2026年1月27日）